

第2回大阪府医師会 「メディカルカフェ」

大阪府民の方と直接意見を交わす貴重な機会として、大阪府医師会では「メディカルカフェ」を実施しています。2回目の開催となる同イベントを6月18日（土）に開催し、府民23人が参加されました。近隣のカフェの協力を得ながら、会議室を即席の「カフェ」にアレンジ。本会役員と府民の方が「在宅医療」について、ともに考えました。



ケーキやコーヒーをを楽しみながら意見交換

まず、本会の中尾正俊副会長より、在宅医療について説明がありました。言葉は知っていてもイメージしにくいいため、中尾副会長の訪問診療の様子を動画で視聴。「在宅医療の基本」を学びました。その後、本会の広報委員を務める川崎康寛氏より、「在宅医療の実情——患者へのアンケート調査から」と題して約1時間の講演を行いました。在宅医療を受けている方およびその家族にアンケート調査した結果※1を紹介しながら、在宅医療の現状や課題などの話がありました。



川崎委員（左）と中尾副会長



前回到続き役員が
カフェのマスターに

らっしゃらず、自然に委ねるとい考えが強い印象を受けます。『亡くなった後の具体的な対応』については、①遺言状やエンディングノートで意思を伝える（7人）、②家族や近親者に思いを伝えている（6人）、③今後考える（5人）と続きました。「何も考えていない」という方は3人で、いわゆる「終活」への関心の高さがうかがえました。

講演の後、3テーブルに分かれ、ケーキやコーヒーを楽しみながら、意見を交換しました。『もし、ご自身が通院困難になったら、どこで医療を受けたいですか？』という項目では、①自宅（13人）、②入院や施設へ入所（7人）、③分からない（3人）でした。また、『意思を伝えることが難しくなったら、どのような医療を受けたいですか？』という問いには、①苦痛を取り除き自然に任せる（19人）、②保険の範囲で可能な医療（3人）、③積極的に医療は受けたくない（1人）と続きました。最先端の医療を希望すると答えられた方はい



そのほかにも役員が「カフェ常連」という設定で参加し、司会進行を務めるとともにトークを盛り上げました

大阪府医師会では、今後も興味深い話題を取り上げ、対話を重視した「双方向性の広報活動」を進めていきたいと考えています。大阪府医師会の活動にご支援・ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

（報告：大阪府医師会広報担当理事 阪本 栄）

※1「大阪府医師会の医療と介護調査～患者・家族の考える地域医療のあり方に関する意識調査～」
(http://www.osaka.med.or.jp/member/index_mem.html)

